

はじめに

盛岡市遺跡の学び館は、零石川をはさみ盛岡駅の南西部にひろがる緑豊かな盛岡市中央公園敷地内の市先人記念館、市子ども科学館、県立美術館につづいて四番目の文化施設として、平成16年6月1日に開館いたしました。

平成12年12月に当市の埋蔵文化財整理作業および収蔵管理を行っていた文化財調査室が火災で焼失し、国民共有の財産である貴重な文化財および調査資料を失ってしまったという反省のもと、当館は市の文化財センターとして文化財保護の拠点となるべく建設されました。

当館は、埋蔵文化財の調査、整理、研究、収蔵・保管を行うとともに、出土資料の展示や遺跡についての体験学習などをとおして、市民の生涯学習、学校教育と連携した小・中学生の社会科や総合的な学習、さらには観光客に盛岡市の歴史を紹介する場として広く活用されることを主なねらいとしております。特に、地下に埋もれている埋蔵文化財を実際に見て触れて、体験しながら盛岡市の歴史や成り立ちを考える学びの公開施設としての役割を担ってきております。

平成16年度は、高櫓A遺跡、堰根遺跡など市内17ヶ所の開発にともなう遺跡の発掘調査と県指定史跡大館町遺跡、史跡志波城跡保存整備事業にかかる学術調査を行い、その資料の整理を実施いたしました。また、開館記念特別展「縄文の彩華 -中期の技と美 -」、第1回企画展「陸奥国最前線 - 志波城と北の蝦夷たち - 」、第22回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」の展示会のほか、市民に開かれた施設をめざし、講演会・学び館セミナー、そして勾玉・土器づくり、縄文体験キャンプなどの体験学習等の学芸事業も積極的に展開して参りました。

この館報は、平成16年度における当館の利用状況や学芸事業の推進状況とともに、当館で実施した盛岡市内の埋蔵文化財の発掘調査の概要をまとめしております。

昨年度の開館以来、関係者の方々、そして子どもからお年寄りまでたくさんの方々が来館され、温かい激励のことばやご助言をいただきております。館といたしましても、市民に開かれた施設をめざし、市民が盛岡の成り立ちをふり返り、盛岡のよさを見つめ直す学びの場としての役割を担っていきたいと考えております。

おわりになりましたが、当館の事業の推進につきまして、関係各位の今後なお一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年3月

盛岡市遺跡の学び館

館長 三浦 晃